

女子大生の魅力的牛乳像の解明

林 俊克* 真柳麻誉美** 道官克一郎*** 平野広隆****

*(株)資生堂 CS 開発センター情報開発室 **女子栄養大学 食品学第一研究室

*** (有) データアート代表 ****(株)アーキテクト

1. はじめに

消費者の意識を明らかにし、ニーズを抽出して商品開発に生かす試みは、特に企業サイドで頻繁に行われており、代表的な手法としてインタビュー調査がある。しかし、これらインタビュー手法は、調査担当者の力量により得られる情報量に差異が生じる他、被験者のみならず調査実施側にも多大な負荷を与える。

道官・林らが広く実施する「定義法」「文章完成法」を用いたアンケート調査データをポートフォリオ、デマテルを主に用いて分析する一連の解析ストーリーは、インタビュー手法と同様に、商品開発のためのニーズ抽出を目的とするが、特にインタビュー調査に比べ負荷が少ない上、要点のみを抽出する点から、効率的であると考えられる。

本報告では、この一連の解析ストーリーにのっとり、女子大生の持つ魅力的牛乳像の解明を試みた事例を報告し、有用性を検証する。

2. 方法

2.1 実施方法

2001年5月25日および29日の両日を使用し、女子栄養大学1年生181名を対象に、「定義法」と「文章完成法」のアンケート調査を学内教室にて実施した(集合調査法)。回答不備の著しいものについては、再配布し、記入後に再回収した(実施日より2週間以内)。

181名の計画に対して、実施は175名。回収は173名(回収率98.9%)で、うち2名に不備があり実質171票を解析に使用した(97.7%)。

2.2 調査設問

問1の「定義法」は 私が普段飲んでいる牛乳とは、私の理想の牛乳とは、とし、思いつくままの定義を定型の自由記述で記入させる形式である。問2の文章完成法は、通称「のだから法」を用い 私が普段飲んでいる牛乳は、私の理想の牛乳は、とし、「 」なので 」というフォーマットにそって用語の自由記述により文章を完成させる形式。問3の「連想法」は 牛乳、という語から連想する用語を、自由記入させる形式とした。

2.3 解析方法

得られた自由語はすべてカテゴリ化し後の解析に供した。問1の「定義法」で得られた回答は、各カテゴリ語の度数をカウントし、調査対象者数に対する%値として求め、横軸に普段飲んでいる牛乳の定義、縦軸に理想の牛乳の定義をとってポートフォリオに展開した。

問2の文章完成法では、「 」なので 」というフォーマットで得られた情報を、「 」 」に分割し、それぞれを「因果」とみなして非対称クロスサポート行列を作成し、デマテルによって解析した結果を連関図として表記した。

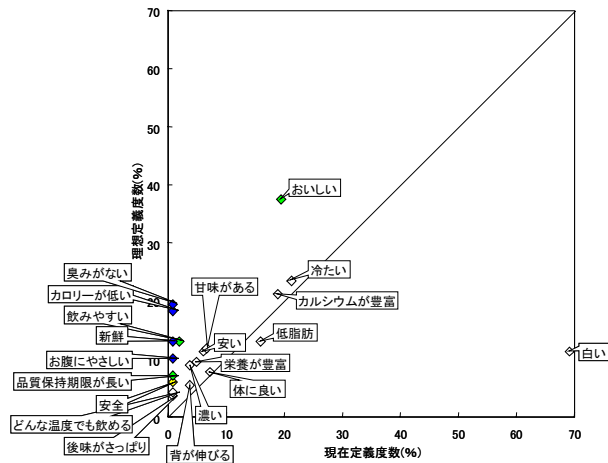
問3については、単純に連想される事柄をヒストグラム化した。

3. 結果と考察

3.1 定義法の結果と考察

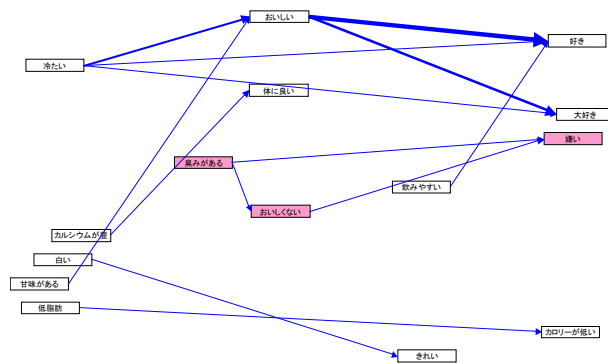
下記のポートフォリオを得ることが出来た。本ポートフォリオでは、現在の定義が少なく、

理想の定義が多い自由語ほど調査対象者にとって価値が高く魅力的な事柄であると考えられるので、「おいしい」「臭みがない」「カロリーが低い」等が女子大生にとって魅力的であり、「低脂肪」「体に良い」「白い」といった事象はさほど魅力的には映らない事がわかった。



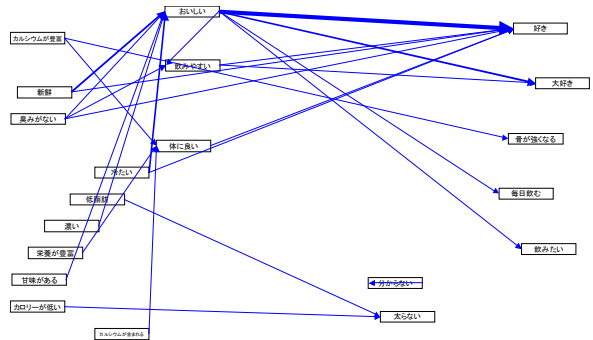
3.2 文章完成法の結果と考察

普段飲んでいる牛乳に関する連関図から、「臭みがある」と「おいしくない」と感じ「きれい」に連鎖しやすく、「冷たい」と「おいしい」から「好き」と認識されやすいことがうかがえた。



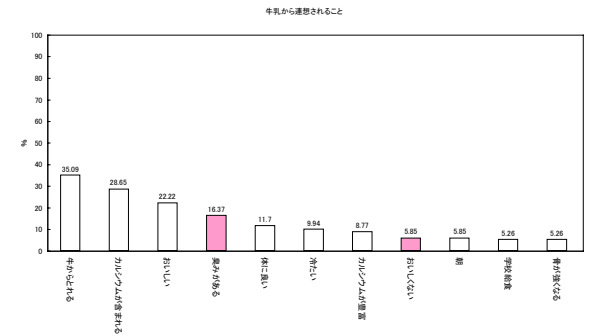
さらに理想の牛乳に関する結果を見ると、「新鮮」「冷たい」と「おいしい」と感じ「好き」につながり、「臭みがない」「濃い」「甘みがある」ことも「おいしい」につながることで、「カルシウムが豊富」「栄養が豊富」なことが「体に良い」との価値を生んでいること等が示唆さ

れた。



3.3 連想法の結果と考察

連想される事柄をヒストグラム化したところ牛乳には「臭みがある」「おいしくない」といったネガティブな連想も見られる事がわかった。



参考文献

- 1) 林俊克, 田久浩志, 道官克一郎, 平野広隆: デマテルによる看護婦の化粧意識の解析, 日本行動計量学会第28回大会発表論文抄録集, 113-114, 2000
- 2) 林俊克: 感性工学と化粧品開発, FRAGRANCE JOURNAL, 2001-4, 46-51
- 3) 真柳麻誉美: 牛乳の買いたさの構造を探る1 ~ 定性調査による仮説モデルの探索と構築, 日本行動計量学会第28回大会発表論文抄録集, 119-120, 2000
- 4) 真柳麻誉美, 小島隆矢: 牛乳の買いたさの構造を探る2 ~ 定量調査によるモデルの検討と解明, 日本行動計量学会第28回大会発表論文抄録集, 121-122, 2000
- 5) 杉山和雄 井上勝雄 編 1996. EXCELによる調査分析入門 海文堂